

中国人留学生の留学意識が進路決定に及ぼす影響について

○上市秀雄¹・呉麗敏² (非会員)



¹筑波大学システム情報系・²株式会社ワンストップ・イノベーションHR

ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

背景

◆グローバル化に伴う留学生の増加

- 留学生数
 - 1983年 留学生10万人計画 (中曽根内閣) 達成目標2000年
 - 2003年に10万人達成
 - 2008年 留学生30万人計画 (福田内閣) 達成目標2020年
- ⇒アジア人留學生が急激に増加。
中国人留學生が最も多い

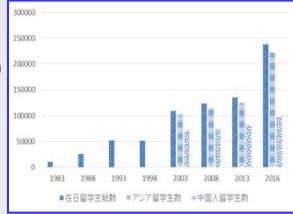


図1 在日中国人留學生、アジア留學生及び留學生総数の推移1983-2016
出典：日本学生支援機構より作成

◆日本社会の少子高齢化・労働人口の減少

- 日本の人口 (e.g., 国立社会保障・人口問題研究所, 2017)
 - 2015年 126,250,000人 (15~64才60.8%, 65以上26.6%)
 - 2040年 106,070,000人 (15~64才53.8%, 65以上35.2%)
 - 2065年 88,810,000人 (15~64才51.5%, 65以上38.0%)
- ⇒労働力の確保、および国際競争力・経済成長を高めるに優秀な外国人労働者を受け入れることも必要

◆日本アジア・ゲートウェイ構想 (2007年安倍内閣)

- 重点7分野の一つである国際人材受入・育成戦力において、「高度外国人材確保」を、国際貢献のみならず、国家戦略に位置付け

◆高度外国人材の受入れ促進 (2012年)

- 高度人材ポイント制導入 (法務省・入国管理局, 2017)
 - 活動内容：高度学術研究活動、高度専門・技術活動のことで、高度経営・管理活動の3つに分類。それぞれの特性に応じて、学歴、職歴、年収等の項目ごとにポイントを設け、ポイントの合計が一定点数 (70点) に達した場合に、<高度専門職>としての在留資格を与える。
 - メリット：永住権申請期間の短縮、複合的な在留活動の許容等の優遇

留學生の中でも、特に優れた外国人材を日本国内で就職させることで、日本国内の労働力不足問題を解決し、日本の国際競争力を高めることが可能かも

目的

◆先行研究

- 留学目的は、学位取得が最大要因 (萩尾・岩男, 1988; 久村, 2002)
- 中国人留學生は、自己実現が留学目的の大きな要因 (謝, 2013)
- 卒業後の希望進路は「日本で就職」が63.6% (日本学生支援機構, 2016)
- 留學生の就職希望者数の約半数しか就職できていない (文部科学省, 2016)
- 日本の高度人材 (専門的・技術的分野) の外国人労働者比率は低い (日本1%、ドイツ8.5%、米国14.8% (経済産業省, 2005))

◆先行研究の問題点

- 留学目的は、「日本の文化に触れたい」、「他国の人と交流したい」等の多様な動機については、十分には検討されていない。
- 留学している今現在、これらに対する評価 (満足・後悔等) は不明
- 高度外国人材に焦点を当てた進路決定に関する研究はほとんどない

目的1：中国人留學生の留学意思決定に影響を及ぼした要因を検討
・留学前・今現在・将来についてのインタビュー調査
目的2：高度外国人材になれる可能性のある中国人留學生に対して進路決定に影響を及ぼす要因について検討する。
・留学目的、日本に対する評価、高度外国人材の知識、進路等の関連性について男女別の特徴を明確化

方法

◆インタビュー調査 (目的1)

- 2017年1~2月, 9~10月実施
- 対象：中国人私費留學生9名の録音データを日本語に翻訳し、テキスト化
- インタビュー時間：1人当たり30~60分

◆質問紙調査 (目的2)

- 2017年11月実施
- 対象：日本の大学・大学院に在籍している中国人留學生 (133名)、および卒業者 (29名)、計162名 (男性47名、女性115名)
- 質問項目 (5段階尺度 1: あてはまらない~5: あてはまる)
 - 留学目的：言語力 (5項目) 日本語力を高めたい、国際交流 (4項目) 外国人 (日本人含む) を交流したい、文化体験 (6項目) 日本人の習慣をもっと知りたい
 - 日本評価：生活面 (3項目) 日本での生活は便利だと思う、環境面 (5項目) 日本では食の安全性が高い
 - 留学評価：キャリアアップ (5項目) 自分の視野が広がった、交流不満 (4項目) 日本人と距離を感じる、留学後悔 (2項目) 日本に留学したことを後悔している
 - 今後の予定：進路決定 (3項目) 日本で就職したい (就職している)
 - 高度外国人材：知識 (5項目) 高度外国人材について聞いたことがある、期待 (4項目) 高度人材に関する仕事に就くとやりがいを感じる、努力 (3項目) 高度外国人材になるための努力をする

結果

対象者	留学前			今現在		今後の予定	
	学位取得	文化体験	友人家族	満足	後悔	日本での就職	帰国
1	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	△	△	○	○
5	○	○	○	△	△	○	○
6	○	○	○	△	△	○	○
7	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○	○

○：上記の内容を強く言及した人、△：弱く言及した人、空欄：言及なし

図2 留学前、今現在、将来に対するインタビュー9名の結果

留学前：留学目的は、「学位取得」だけでなく、「日本の文化を体験したい」も重要
留学決定には「家族・友人の薦め」が影響
今現在：留学に対して概ね満足している
今後の予定：日本での就職を希望する人が多い

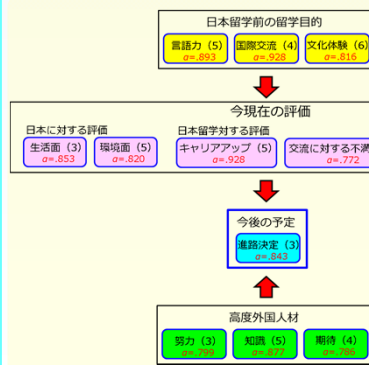


図4 留學生の進路意思決定モデル



図5-1 男女別、留学目的が進路決定に及ぼす影響

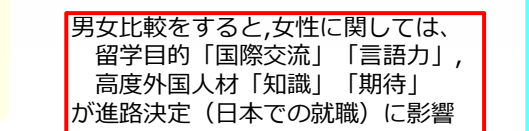


図5-2 男女別、高度外国人材が進路決定に及ぼす影響

男女比較をすると、女性に関しては、留学目的「国際交流」「言語力」、高度外国人材「知識」「期待」が進路決定 (日本での就職) に影響

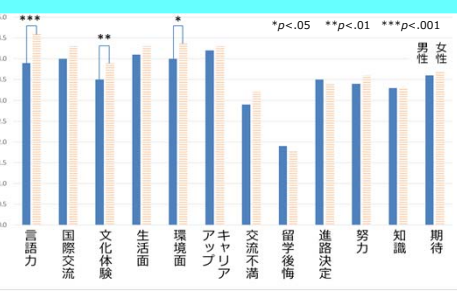


図3 各因子における男女平均、t検定の結果
留学目的「言語力」「文化体験」、評価「環境面」は女性の方が男性より高い。しかし、他は有意差なし。

考察

◆日本への留学促進

- 留学決定には、日本文化体験や家族の薦めが重要
⇒海外への日本文化の発信、日本留学経験者からの情報発信が必要

◆日本での就職促進

- 特に女性は、留学前の目的「国際交流したい」「言語力を高めたい」、高度外国人材「高度外国人材に期待している」「知識」が影響

日本留学・就職、および高度外国人材を促進するためには、事前に日本文化や高度外国人材等に関する情報発信 (日本留学経験者からも)、特に女性については日本人を含む外国人との交流機会を増やす等の政策や制度設計等をする必要あり